

スポーツ

川越

発行 川越市体育協会



後半18分 堀のヘディングシュート(ゴール)

Jリーグサッカー元年

新しいサッカーの時代へ

川越市体育協会副理事長 栗原 忠男

今サッカーを取り巻く時代背景が、大きく変わろうとしています。世界のスポーツの中でもっとも普及し、人気があるのがサッカーだといわれている。

サッカーは一八六〇年代イギリスで生まれ、サッカー協会が結成され、更に統一ルールが制定され、現在のサッカーのスタイルが確立された。

日本では、一九九三年Jリーグが発足し、いよいよプロ化となります。ますますサッカーが盛んになろうとしている中で、川越市では市制施行七十周年を迎え、川越運動公園陸上競技場のオープン事業として、平成四年九月二十七日にJリーグヤマザキナビスコカップ公式試合を招致し、三菱浦和F・C・と日産F・C・横浜マリノスを迎え試合を行った。

八〇〇名を越す大観衆が選手と一体となって、両チームに声援を送った。強風の中でも、素晴らしい接戦を展開してくれた両チームに心から拍手を送りたい。

競技場は、試合開始前からいっばいとなり、立ち見の出るほどの盛況であった。

こうした熱心な観衆・観客は、サッカーのプロ化に伴い、我々サッカー関係者に何を要求しているのかを察知し、その要求に答えていくというのは、難しい問題である。

今後ますますチームの強化が進み、プロ思考が強まる中で、ただ勝利だけを求めるのではなく、生涯スポーツを思考する中で、将来につながる選手をいかに育てて行くかが我々にかせられた大きな課題である。

現在県では、ワールドカップ日本誘致と合わせ、浦和東部にスタジアムなどの施設を整備し、設立準備委員会を通じ準備を進めていると聞く、私は大賛成である。最高のプレーに接し、「楽しいな」「素晴らしいな」「やってみたいな」と思い、ここからスポーツ人口の増加が始まり、選手層の底辺が拡がり、更に素晴らしい選手の芽が育つと考えるからである。

今後、サッカーが領域を越えてスポーツ全体の発展の為に社会的・経済的役割を果たすことを望みます。

スポーツ講演会

「私の野球人生」

講師 前巨人軍監督 藤田 元司氏

平成四年度スポーツ講演会は、前読売巨人軍監督 藤田元司氏を迎え「私の野球人生」と題して、二月三日にやまぶき会館で開催されました。

当日は二月の寒い日にもかかわらず会場一杯の六三四名という熱心な聴衆を前にして、同氏の選手・コーチ・監督の経歴を通して熱弁を聞くことができました。

講演は、藤田氏自身「挨拶」を大事にするということから始めました。それは「人の心というものは、明るい気持ちで、心を開いて人に接しないと、人の話も自分の話も通じない」という信念からでした。

大きな声で「今晚は」の挨拶をかわし、互いに心を開いたところで「野球人生」の話に進みました。「プロは勝負する」

労力を提供し、報酬を得るものはすべてプロである。プロである以上必ず勝負がある。勝負する以上勝たねばならない。負けてもよいという勝負は絶対にならない。

「勝負と指導者」
「勝つためにはどうすればよいのか

諦めたら負けである。特に指導者は諦めてはならない、先に諦めたほうが負けである。監督が今日は負けたなという気持ちを持ちますと、選手も同じ気持ちになるんです。選手は非常に敏感です。最後まで勝つんだという執念を持ち続けなければならぬ。

監督は、常に前向きの姿勢でコーチ、選手を信頼し、同じ勝つという目標に向かって進んでいかなければならぬ。更に、相手がやっている以上の努力をする、最後は、これだけやっつんだから負ける訳がないということまで訓練する。これが目標達成に必要な考え方です。

「組織を生かす」
組織の中で一番大事なことは、何処にでも縁の下の力持ち、即ち下働きをしている人が必ずいるものである。野球ではコーチ・マネージャー等である。この人たちの心を十二分に掴み、自分のやっていることが自分の仕事がつまらない事だと思わせない様にすることが大切である。組織に対する苦勞は皆同じ「人を理解し」「尊敬し」やりやすい環境をつくり、どうせやらなければならぬ仕事なら、喜んでするよう仕向けることが指導者の仕事である。仕事に真正面から向かい熱中する、そこから仕

事に対する喜びと自身が湧いてくるものである。

「スランプ脱出」

努力は満足しては駄目、常に目標を高く持ち、研究する。その過程でスランプに陥ることもある。その時は基本から再び挑戦する。どん底は選手にとってチャンスとみればよい、基本から始め何か一つにのめり込む、当然解らない事が出るだろう。その時は聞いてみればよい。自分の姿は自分ではわからない。他人が一番よく知っている。聞いてそれを取り入れる事により技術向上が図られる。その時は結果を考えず、積極的にやり失敗を恐れないことである。

スランプ脱出には、「基本に返る」「土台を固めてみる」「走り込み」がある時期、ある期間徹底してやってみる事です。

「伸びる人」は非常に積極的です。人間若い内は積極的で攻撃型であってほしい。怠け心に勝つか負けるか、自分に鞭打つてやる人いい結果が出ます等特に感銘を受けた内容を述べ感想と致します。

幅広い年齢層の聴衆に実例を交え有意義な講演に厚く感謝申し上げます。

主催

川越市教育委員会
川越市体育協会
川越施設管理公社

視察研修会

平成 4 年 12 月 5 日・6 日と前橋市総合スポーツセンターへ体育協会の視察研修会が行われました。今年のホスト団体は、空手道連盟と我々スキー連盟の 2 団体で行いました。私も何年振りかで参加させて頂きました。

毎日、好天に恵まれ素晴らしいスポーツセンターを見学し各連盟の皆さんの質問にセンターの職員の間切りのよい答えに参加者もなつとくし、川越にもスポーツを楽

体育関係者賀詞交換会

平成 5 年 1 月 9 日に川越福祉センターで体育関係者 269 名の参加を得て盛大に行われた。今年ホスト団体は、婦人スポーツ団体連絡協議会と柔道連盟で請負った。

幾年ぶりのホストとして準備室で最終のミーティングを行い、ホスト当番の理事として滞りなくできるかと不安がいっぱいだった。式典が終わる宴会となると不安も吹きとぶ。参加者の熱気呑むほどに喋り、騒ぎ、歌う。肩を抱き合い本当に楽しそうであった。

婦人スポーツ団体連絡協議会の皆さんが、甲斐がいしく働き、我々柔道マンのごつい手のテーブル

しむ人達の健康を管理できる医療器具のある施設が必要だと実感しました。また、参加した人もそれぞれ胸に残る部分が色々あったのではないかと思う。視察研修も終わりホテルで風呂に入り、宴会場に、さすがスポーツ人の集まりらしく、時間通り始まり挨拶も滞りなくすまいよいよ大宴会が始まる。底抜けに明るく、豪快に呑むこともまた、全員楽しく親睦をはかることが出来ました。

来年もまた楽しい研修会を期待し、ペンを置きます。

サーブスで典冷めするのではないかと思つたが、そこはスポーツマンの集い、笑顔で労ってくれる。忙しくて、心配したホストも、締めめの拍手と歓声を聞き安堵の胸をなでおろした。

川越市体育協会 主催





『待望のオープン』 陸上競技場

昭和56年3月、川越市体育協会が「総合体育施設建設方請願について」を市に提出してから10年、市民待望の川越運動公園陸上競技場が完成した。

川越運動公園は、昭和57年「総合運動公園基本構想」に基づき、市制60周年記念事業として位置付けられ、昭和58年に運動公園として面積13.5ヘクタールを計画決定された。昭和59年には、「川越運動公園建設委員会」が設置され、体育協会から7名の委員が参加し、設計・建設に対する考え方に、その意見を大きく反映させた。この委員会の協議に基づき、昭和59年度に事業認可（5.1ヘクタール）を得て、昭和59・60年度に公園全体の用地買収を完了した。第一期事業として、昭和61・62年度に植栽を行い、昭和63年度から施工した陸上競技場が平成3年度をもつて完了したものである。

この陸上競技場は、全天候第2種公認で、収容人員は、メインスタンド及び芝生スタンド併せて八千五百人であり、フィールドは、400メートルトラック8コース、全天候ウレタン舗装仕上げで、雨天走路も設けてある。インフィールドは、高麗芝を張りサッカー競技を兼ねることができ、県内西部地区においては初の施設である。

オープンを記念し、平成4年9月27日（日）午前、多数の来賓、関係者の参加を得て、盛大に竣工式が挙行された。また、午後には、オープンイベントとして、'92Jリーグヤマザキナビスコカップ公式試合である「三菱浦和FC対日産FC横浜マリノス」戦が、超満員の観客を集めて行われた。

この試合は、三菱浦和FCのホームゲームであるが、「市制施行70周年記念川越運動公園陸上競技場オープンイベント」として、多くの市民がプロスポーツの観戦をとおし、スポーツへの理解を深め意欲的に生涯スポーツを实践できるように、実行委員会を組織して対応した。

実行委員会は、大谷体協理事長を会長に、栗原体協副理事長を実行委員長にして組織された。川越市サッカー協会から36名、川越市体育指導委員連絡協議会から37名、高体連2名、養護教諭1名、市内高校生95名、総勢172名で大会を運営した。

実行委員会は、総務部と大会運営部に分かれて組織した。総務部は、主に三菱浦和FCとの折衝、報道関係者・役員・来賓等の接待を行い、大会運営部は、大会開催に係る、審判係、救護係、場内整備、グラウンド設営、本部設営、

入場券モギリ、ボールボーイ、そして、二千台を越えた駐車場整理係等、大変な仕事を任務とした。

また、実行委員以外にも、川越警察署の警備、交通指導員による交通整理、市役所職員によるスタンド警備、東武バス川越営業所長さんのご配慮による臨時バスの増発など、多数の皆さんのご協力により大会が開催された。

この試合は、サッカーがプロ化しての初めてのビッグゲームであり、テレビ埼玉の中継放送、全国ネットのニュース等でも取り上げられ、全国に川越運動公園をアピールすることもできた。ちなみに、当日の報道関係者は、二百人を越えた。

観客は、市内小・中学生四千人、式典関係者、体育関係者、自治会関係者、各種市内団体等千人、合計五千人の招待者をはじめ、八千五百人収容のスタンドが超満員であった。

試合は、強風の吹く悪コンディションではあったが、緑の芝生があざやかに目にはえ、選手のすばらしいプレーに、おしめない拍手とウェーブの応援など、今までに経験したことのない感動を市民に与えてくれた。

試合結果は、2対1で三菱浦和FCが勝利し、地元埼玉のチーム

の勝利に、選手、応援スタンド一体となった勝利の味に酔いしれた。



表紙写真



三菱浦和FC 堀の逆転ヘディングシュート（ゴール）

第四十五回 市民体育祭盛大に開催

平成四年度

第四十五回 川越市民体育祭

昭和二十三年に市民大運動会として始まった市民体育祭も四十五回を迎え、今年度は、「なぎなた」を新たに加え、二十七競技種目で開催された。

競技は、平成四年九月六日の「水泳」と「ソフトボール」をかわりに、十月四日の「総合開会式」を中にはさみ、平成五年三月二十一日の「スケート」を最後に、市内各地で熱戦を繰り広げ、無事に全種目を終了した。各競技種目の結果は、ページの都合上省かせてもらいます。

本年度全種目を通しての参加者数は、二六、三八八名で昨年度の参加人数より三、五〇〇名増加した。また、町内体育祭は、平成四年九月二十七日から十一月二十九日の期間で、市内各地三十二会場・一八一自治会・四五、七七二名の参加者を得て行われました。市民体育祭・町内体育祭の参加者を合計すると七二、一六〇名となります。参加者は年々増加の傾向が

見られ、市民のスポーツへの関心の高まりが感じられます。

競技別にみると、参加者の多い競技は、「ソフトボール」・「サッカー」・「水泳」・「テニス」である。また、個々の競技種目で見てみると、急に参加の増加がある種目はなく、全体的に少しずつ増えている。特に、格技・陸上等個人種目の参加者の増加が見受けられる。

生涯スポーツが重要視されている現在、市民の一人でも多くの参加を望みます。

なお、第四十五回の市民体育祭総合開会式は、九月二十九日オープンした、川越運動公園、陸上競技場で、平成四年十月四日川越市制七十周年記念事業「市民ビュック」の一環として、スポーツの祭典にふさわしい秋晴の下、盛大に行われた。選手宣誓は、競技団体代表と一般市民代表の二名により、「スポーツ精神を發揮し、健康で明るい市民を目指し頑張ります。」と、力強い宣誓が行われた。

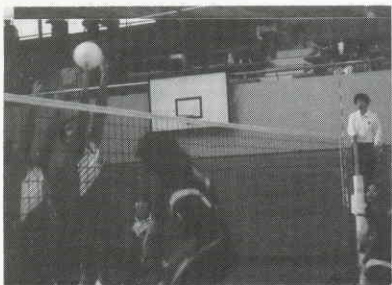
平成4年度 第44回市民体育祭実施報告

単位：名

種目	日時	会場	平成4年度市民体育祭参加状況一覧					合計
			小～高	30代未満	婦人	30代～60代	その他	
総合開会式	10/3	陸上競技場						367
野球	9/15-20-23	初雁球場他				300		300
卓球	10/10	市民体育館	174	98	57	32	8	369
ソフトテニス	10/6～11/8	市営初雁コート他	60	40	108	8		216
バレーボール	9/13～11/15	市民体育館他	150	200	600			950
バスケットボール	10/18～11/15	川越初雁高校他	360	495	30			885
サッカー	10/10～12/6	陸上競技場他	1,328	450	78	30		1,886
柔道	9/20	川越武道館	368	83	26	47		524
剣道	10/10	川越武道館	232	35	18	38		323
弓道	11/15	川越武道館	62	10	12	7	4	95
空手道	10/18	川越武道館	80	74				154
陸上	10/25	陸上競技場	430	34	4	6	1	475
水泳	9/6	川越女子高校他	1,362	42	48	56	8	1,516
スキー	2/28	湯沢パークスキー場	36	101	20	68		225
クレ射撃	10/10	群馬ジャイアント射撃場				62		62
ライフル	9/15	朝霞オリンピック射撃場		8	3	37	1	49
スケート	3/20	東武川越スケートセンター	30	7		4		40
体操	11/22	市民体育館	114					114
小体連	10/2	霞ヶ関小学校他	1,320					1,320
中体連	10/16-17-18	市民体育館他	6,900					6,900
高体連	9/8～12/8	川越高校他	3,000					3,000
レクリエーション	10/25～11/15	市民体育館		8	338	18	72	436
バドミントン	11/29	市民体育館		140	48	143	7	338
少林寺拳法	10/11	月越小学校	140	92	6	10		248
ソフトボール	9/6～11/15	入間大橋グラウンド			292	3,153	685	4,130
硬式テニス	10/3～11/8	川越水上公園他	1,249	45	37			1,331
ボウリング	9/15	川越ファミリーレーン		11	37	24	8	80
なぎなた	11/1	川越武道館	15	1		23	16	55
合計数			16,161	3,178	1,770	4,102		26,388



市民体育祭総合開会式兼市民ピック開会式の選手宣誓



熱戦が続くママさんバレー (市民体育祭)



体育功労者・優秀選手 表彰式

平成四年度 体育功労者・優秀選手
の表彰式は、平成五年二月十四日にやまぶき会館で、三〇〇名余りの関係者の参加を得て盛大に行われ、体育功労者七名、優秀選手二五七名が受賞した。

式は、村田和男教育長の開式の言葉で始まり、舟橋功一新市長より表彰者に対し、祝福と激励の挨拶があり、引き続き舟橋新市長・村田教育長と関口体育協会会長より、体育功労者・優秀選手に賞状と記念品が、授与された。そして関口会長の閉会の言葉で表彰式を終えた。

体育功労者は、本市体育・スポーツの振興に著しく功績のあった方に、優秀選手は、県大会の優勝者・関東大会出場者また、全国大会等に出場し活躍された選手に対し、贈られるものです。

体育功労者・優秀選手受賞者(受賞団体)一覽

〔体育功労者〕

- 堀 孝(弓道連盟)
- 鈴木 邦夫(空手道連盟)
- 原野 勲(陸上競技協会)

小高 清次(スキー連盟)

新井 行夫(スケート連盟)

森田 昌記(小学校体育連盟)

関谷 正幸(ボウリング連盟)

〔優秀選手受賞団体〕

野球の部

パイオニア川越工場 二十名

秀明高等学校 十六名

卓球の部 六名

卓球連盟

ソフトテニスの部 四名

ソフトテニス連盟

星野女子高等学校 七名

バレーボールの部 九名

霞みなみJVC 九名

名細JVC 九名

バスケットボールの部 十八名

霞ヶ関東中学校

星野女子高等学校 十六名

柔道の部 三名

柔道連盟

大東中学校 二名

剣道の部 二名

剣道連盟

弓道の部 一名

弓道連盟

星野女子高等学校 七名

空手道の部

空手道連盟 三名

陸上の部

南古谷中学校 二名

砂中学校 二名

高階西中学校 四名

星野女子高等学校 二名

水泳の部 一名

高階南小学校 二名

第一中学校 二名

高階中学校 二名

高階西中学校 三名

初雁中学校 一名

星野女子高等学校 五名

スキーの部 二名

スキー連盟

スケートの部 七名

スケート連盟

体操の部 七名

鯨井中学校 九名

野田中学校 七名

星野女子高等学校 三名

レクリエーションの部 三名

バウンドテニス連盟

少林寺拳法の部 二名

埼玉古谷支部 十二名

城北埼玉高等学校 九名

山村女子高等学校 十五名

川越東高等学校

ソフトボールの部 二十二名

星野女子高等学校

ボウリングの部 一名

ボウリング連盟

自転車競技の部

川越工業高等学校 五名

※平成四年度埼玉県体育賞授与式が平成五年三月十三日に埼玉会館大ホールにて行われました。川越市で授与された方々は、以下のとおりです。

知事特別賞

星野女子高等学校

功労者

伊藤義郎

(川越市野球連盟会長)

優秀選手

黒田 語(川越工業高等学校)

三森早苗(星野女子高等学校)

佐藤寿男(川越市卓球連盟)

太田真一(川越工業高等学校)

星野女子高等学校弓道部

監督 齋藤あき子

選手 島野悦子・高野宏美

鈴木理恵・三浦恵子

君島光紀(高階西中学校)

野口記念体育賞

持田京子(星野女子高等学校)

川越市体育賞

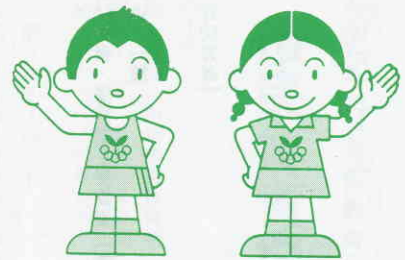
平成四年度川越市内児童・生徒体育賞が体育協会正副会長正副理事長会において選考されました。本年度は、市内五十二校の学校長より九十三名の推薦がありました。昨年度より八名多くなっています。現在市内には、小学校三十三校、中学校二十二校、高等学校十四校の受賞対象校があります。なお、受賞人数は下記の表のとおりです。

体育賞受賞者種別集計

	小学校	中学校	高 校	合 計
男 子	1 8	2 2	9	4 9
女 子	1 8	2 0	6	4 4
合 計	3 6	4 2	1 5	9 3

この体育賞は、川越市内小・中・高校の児童・生徒が対象で体育及び、学業共に優秀で他の模範である者に贈られます。

受賞者には、卒業式当日に表彰状と記念品を授与しました。受賞者の今後の活躍を期待します。



スポーツ少年団

スポーツを通じて、青少年の健全育成を図る組織として日本スポーツ少年団は、昭和三十七年に日本体育協会創立五十周年記念事業として創設されました。川越市においても本部設立は、昭和五十年に少年団数三十一団により発足しました。体育協会の組織の傘下として運営活動を行っています。

スポーツ少年団は、学校組織でのクラブではありません。基本的には成人の指導者、親や地域住民の有志が組織する育成母集団によって構成されています。平成四年度の登録状況は、団数五十六団、団員数二、五三三名(男二、一四七、女三八六)指導者四八〇名となっています。団員はメンバーシップ制であり、本部への登録制度



であり、各単位団には必ず認定指導員がおり、年間計画に基づき運営しています。川越市においては、体力テスト会・新春マラソン大会・スポーツ体育祭・指導者研究会等を行っています。また、種目によっては他県との交流も盛んに行われており、スポーツ少年団活動の活発化のためにも、この様な交流交換は重要となっています。

本年は本部創立三十周年行事が行われ、本部、県において記念式典が行われ川越市からも十一名が表彰されました。スポーツ少年団も二十一世紀へ向けて青少年の健全育成、地域のスポーツ少年団としての発展を目指すと共に、努力をしていきたいと思ひます。

婦人スポーツの集い

「わたしのスケート人生」と題し渡部絵美女史の熱弁を拝聴した。二才の時に父親のおみやげのスケート靴をはく事によって彼女のスケート人生が歩み出され、一九六九年十才の時スケート留学のため渡米。フェリックス・キャスパイ氏のもとで練習を積み重ね、十二才で日本スケート界にデビュー。表現力、滑走、リズム感で注目を集め和製ジャネット・リンと呼ばれ数多くの国際大会に出場し、好成績をおさめた。一九七九年にはウィーン世界選手権第三位となり、その氷上の華麗な演技は観衆を魅了した。一九八〇年現役引退までの輝く栄光は、親子共々の血の滲む様な努力と根気と汗の結晶の賜物だと痛感しました。今後は後輩の育成のよき指導者となり、日本



のフィギュアスケート界を世界に翔かして下さる事を念じます。実技は川越在住の帯津先生をお迎えし、「気功」を行った。NHK教育テレビ「心を豊かに」に出演中で今注目を集めている話題の医療で、神秘的なメロディーに乗せ静かに流れる様な身体の動きで、終わった後全身がすっきりとしました。生涯スポーツとして今後も御指導をねがえれば幸いと思ひました。

第十一回婦人スポーツの集いも参加者八百名と盛会の内に終了する事が出来た事は関口会長初め皆々様のお骨折りと役員一同感謝申し上げますと共に、次回も良き集いの講演者を迎えたいと願っています。

第21回 市民駅伝大会

平成四年十二月十三日(日)第21回市民駅伝競走大会は、九月二十七日竣工となった川越運動公園陸上競技場を中心に開催し、晴天の駅伝日和のなか、84チーム・五百名と多くの参加者が集まり実施されました。今年度は、コースも陸上競技場および周辺道路の3700M・7400M(中学生3000M)に変更され、これからの本市陸上競技のメッカになる全天



候のグラウンドでテープを切る姿は、感慨深いものがありました。

一般種目を本年度より、男女混合も可能と変更しました。定着チームも数多い中で、一般参加チーム数を多くすることが今後の大きな課題といえるでしょう。

- ・一般A優勝 ACIOIA
- ・一般B優勝 日油技研工業A
- ・一般女子優勝 星野女子高
- ・高校男子優勝 川越工業高A
- ・中学男子優勝 高階西中A
- ・中学女子優勝 大東西中A

第11回川越ウォークソン大会

市制七〇周年記念
第十一回川越ウォークソン大会

「青空の下 健脚を競う」

秋の小江戸を歩く「第十一回川越ウォークソン大会」(川越市・毎日新聞社など主催)川越市体育協会主管は、十一月三日(文化の日)県内外から三、二八三人が参加し、健脚を競いました。

今大会は、市制七〇周年記念事業の一環として、新設なった川越運動公園陸上競技場を中心に、伊佐沼周辺の田園コースで行われ、競技種目では、

一般男子二〇キロ 藤野原さんが優勝。須藤さんは三連覇の偉業を果たした。

「歩くことの大切さを」

抜けるような青空が広がる、絶好のスポーツ日和に恵まれた開会式。挨拶に立った川合川越市長は「市民の念願であった、陸上競技場の完成を機にこの地で開催されることは、大変意義のある喜ばしいこと…… 毎日健康で楽しい生活をするためにも「歩くことの大切さ」を知ってほしい」と挨拶された。

競技は同九時、川合川越市長のビストルの合図で、競技種目一般男女・レクリエーション種目の小学生・中学生・一般と順に競技場

をスタートしていった。

「十位まで表彰 スタイル賞一〇組」

閉会式は同競技場で正午から小学生の部、全体の閉会式が午後一時から行われ、競技種目一般男女は十位までを表彰。歩く姿(姿勢)を競うレクリエーション種目は選考により「スタイル賞」がおくられた。八十歳以上の参加者五名の方には「シルバー賞」が贈呈された。

参加者の記録

【競技種目】

◎一般男子二〇キロ

- 一位 藤野原稔人 1時間36分44
- 二位 長谷川 渡 1時間36分50
- 三位 金田 光雄 1時間47分51
- 四位 浦部 兼延 1時間56分02
- 五位 山田 龍也 2時間02分49
- 六位 根本 利勝 2時間02分54
- 七位 沢田 博美 2時間03分56
- 八位 齋木 六郎 2時間04分23
- 九位 北村 富弘 2時間05分07
- 十位 佐々木敏雄 2時間06分04

◎一般女子一〇キロ

- 一位 須藤 則子 55分59
- 二位 松本真喜子 1時間05分43
- 三位 特田真佐子 1時間07分06
- 四位 梶田喜美子 1時間11分02
- 五位 柳川マサ子 1時間13分56
- 六位 上原 綾子 1時間14分00

◎中学生一〇キロ男子

- 星野 真・岡野 徹・田中秀樹
- 倉上智和・篠原陽介・小沢 悠
- 増田良幸・山岸悠佑・根本伸樹
- 小柳啓一

◎中学生一〇キロ女子

- 関根友美・五十里恵子・平沢純子
- 富重文恵・坂代愛子・小山由美子
- 本田智子・赤井絵美・高橋友里
- 遠藤有希

◎小学生五キロ男子

- 井出賢治・宮越俊介・阿部浩之
- 小高弘之・西村晃一・近内 孝
- 大室彰夫・岡 秀幸・川 俊也
- 戸井田雄輔

◎小学生五キロ女子

- 鈴木 綾・鈴木 碧・金子 暁
- 岡田美香・伊藤佳代・奈良和子
- 三上絵美・有光優美・中西智子
- 福岡季理子

◎一般五キロ59歳以下男子

- 半谷 司・関根好男・山田吉典
- 山田光朗・柳瀬栄一・小俣勝美
- 鈴木忠夫・粕谷森雄・阿部久雄
- 関口喜康

◎一般五キロ59歳以下女子

- 折戸谷美子・前田久二子・加藤利子
- 伊東栄子・佐々木初江・八田玉江
- 岡田豊子・沢田ちえ・野口多希子
- 内山サダ子

◎一般五キロ60歳以上男子

- 栗原忠一・新井秀男・浅井章吉
- 帯津栄太郎・星野一郎・杉田作三
- 吉野広佑・宮崎義信・原田孝平
- 鈴木喜三郎

◎一般五キロ60歳以上女子

- 掛巣ツネ子・水野妙子・杉山俊江
- 雲村栄子・大谷繁子・竹内昭子
- 永棟タケ・神山さと・小久保まさよ
- 関根規子

◎一般一〇キロ男子

- 根生 昇・藤倉 睦・和田 浩
- 小川清一郎・高橋正浩・数野昌雄
- 吉崎 一・渋谷修平・兼子 弘
- 北川靖規

◎一般一〇キロ女子

- 池田典子・鎌滝真知子・中野正子
- 吉野淳子・月坂信子・坪田康子
- 小林祥子・中山秀美・井口まさみ
- 菅原雅子

◎親子五キロ

- 阿部文子・博明、根本定男・輝光
- 松本利子・めぐみ、森田文治和宏
- 新井紀子・美穂、浅利隆昇・隆之
- 横山一美・亜季、矢島信宏・正邦
- 細野俊行・恵美、笛木達也・雅人

◎シルバー賞

- 平田伊佐蔵 (89歳)
- 中野繁之助 (85歳)
- 大久保ルイ (82歳)
- 塚田 武雄 (85歳)
- 石川 ミネ (81歳)

第11回川越ウォークソン大会

(種目別) (参加者)

競技種目	申込者	参加者	欠席者	参加率
一般男子20キロ	33	30	3	90.9%
一般女子10キロ	40	36	4	90.0%
レクリエーション種目	申込者	参加者	欠席者	参加率
一般男子10キロ	290	266	24	91.7%
一般女子10キロ	171	152	19	88.9%
中学生男子10キロ	216	201	15	93.1%
中学生女子10キロ	51	47	4	92.2%
一般男子5キロ(59歳以下)	125	111	14	88.8%
一般女子5キロ(59歳以下)	285	265	20	92.9%
一般男子5キロ(60歳以上)	92	88	4	95.6%
一般女子5キロ(60歳以上)	90	87	3	96.7%
小学生男子5キロ	365	323	42	88.5%
小学生女子5キロ	370	341	29	92.2%
親子5キロ	1,392	1,336	56	95.9%
合計	3,520	3,283	237	93.3%

団体 だより

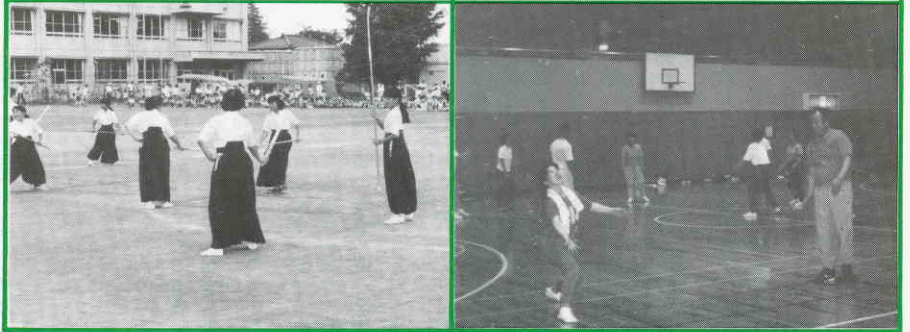
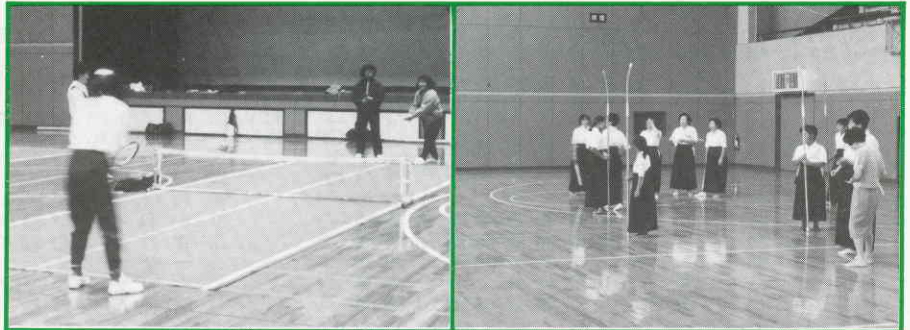
川越市なぎなた連盟

川越市の「なぎなた連盟」の発足から今日までの歩みについてご紹介いたします。

「なぎなた連盟」の源は、昭和五十七年四月に、なぎなたを通して一般婦人の体位向上と明瞭優雅な精神の高揚をはかると共に青少年の育成に努め、併せて会員の親睦を図ることを目的として発足いたしました。

なぎなた連盟は「川越なぎなた同好会」に廻ります。発足当時の同好会は、会員二十余名で毎週木曜日に川越武道館を会場にして、先生の指導の下に二時間程度練習を行なってきました。初期段階では「なぎなた」を持つのも初めてという人もいました。

従って練習は、なぎなたの基本「メン・コテ・スネ」の打ち込みを繰り返して行なうことでした。当然のことながら「級」・「段」を有している人は一人もおりませんでした。なぎなた同好会は、発足後十年を契機に平成三年五月「はつかり」「ジュニア」「花みずき」「つくし」の四つのクラブから成る「川越市なぎなた連盟」を結成



し、平成四年四月に川越市体育協会に加盟し今日に至っております。

どのスポーツにも言えることですが、なぎなたも急に上達するものでなく、日々の練習の積み重ねが大切です。会員一同これを肝に命じて日々精進しております。

現在会員は、五十余名で小学校

一年生から六十歳代と幅広い年齢層を誇っています。

私達は、なぎなたを通しスポーツをする楽しさ、喜びを味わい、健康で明るい毎日を過ごすことにより、市民の生涯スポーツ活動の一端をになうことができると願っております。

レクリエーション協会

川越市レクリエーション協会は他の体育協会加盟団体と組織が少し違つて6つの団体の連合体からなっています。

- 6つの団体とは
- ・川越市民踊連盟
- ・川越市フォークダンス連盟
- ・川越市レクリエーション・リーダーズクラブ
- ・川越市インディアアカ連盟
- ・川越市バウンドテニス連盟
- ・川越市健康リズム体操クラブ

です。

それぞれの団体は、日頃、各団体ごとに独自の活動をしています。例えば、川越の夏まつりなどで見かける「民踊パレード」。野外やイベントで見かける民俗衣裳もはなやかな「フォークダンス」。ファミリースポーツとして愛好者の多い「インディアアカ」。スポーツ教室などでおなじみの「バウンドテニス」。公民館などの活動でおなじみの「リズム体操」。子ども会などの催しで指導している「レクリエーション」。まだまだたくさんあります。これ等はすべて私たちレクリエーション協会に加盟している団体の活動です。

自分たちが活動しているものほか、各地域の研修会の指導者として講師の派遣も行っています。

これは皆様よくご存知のことと思います。

各団体独自のほか、協会としてまとまって活動することがあります。

それは毎年、五月の第三日曜日に行われる「全国一斉ウォークラリー大会」の運営です。

この大会は、誰れでも自由に、練習なしに参加できますので、多数の参加をお待ちします。

「ふれあい健康まつり」「ウォークン大会」などにも参加し、日常活動の中での「レクリエーション」普及にもがんばっています。

紹介したような活動を見たときには、ぜひ声をかけあつて仲間に入ってきてください。

お待ちしております。

編集後記

本年度は、川越市が市制施行七十周年を迎え、新設となつた陸上競技場オープン式典を始め多くの記念行事が開催されました。従つて、本年度の「スポーツ川越」は、その行事を中心に編集いたしました。

編集に当たつて、多くの方々にご協力いただきました。厚く御礼申し上げます。

広報委員会